

令和2年度 国立大学イノベーション創出環境強化事業
審査・評価委員会（第2・3回）概要

1. 日 時：第2回 令和2年9月15日（火）13:00～18:00
第3回 9月23日（水）9:00～14:00

2. 開催形式：オンライン会議

事務局会場 内閣府中央合同庁舎第8号館8階特別大会議室（9/15）

//

6階632A会議室（9/23）

3. 議 事：

	第2回	第3回
（1）新規採択候補大学選定のための一次審査について	○	
（2）二次審査の観点と新規採択候補大学の選定方法について	○	
（3）二次審査申請大学のヒアリング	○	○
（4）審査結果について		○
（5）その他		○

4. 審査・評価委員会 委員

○五十嵐 仁一（ENEOS 総研株式会社代表取締役社長）

◎上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）

○岸本 康夫（JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監）

○本山 和夫（学校法人東京理科大学理事長）

○渡辺 裕司（元株式会社小松製作所執行役員経営企画室副室長）

※◎は座長、下線は欠席

（五十音順・敬称略）

5. 採択候補大学の選定方法

- ・一次審査、二次審査ともに満点は30点に設定。
- ・一次審査と二次審査の合計点で順位付けし、令和2年度は上位大学4校（国立大学運営費交付金の重点支援①及び②の大学2校、重点支援③の大学2校）を選出する。

6. 二次審査の観点

二次審査は、以下4つの観点に基づき評価する。

審査の観点

(1) 大学の財務構造の適正な把握

(主に各大学の計画調書の「(1) 法人化以降の大学の支出の推移」、「(2) 法人化以降の大学の収入の推移」、「(3) 今後の支出と収入の在り方」に関連)

これまでの大学の支出、収入の分析を基にして、大学の財務構造の現状ならびに課題を適切に把握しているか。

(2) これまでの成果・実績

(主に各大学の計画調書の「(4) 外部資金獲得額増加に向けたこれまでの成果・実績」に関連)

これまでの外部資金獲得の増加に向けた改革の取組は、効果的なものであったか。

これまでの成果・実績を踏まえて、今後の計画が実現可能と判断されるか。

(3) 今後の民間資金獲得額増加に向けた計画の妥当性と具体性、実現可能性

(主に各大学の計画調書の「(5) 今後の民間資金獲得額増加に向けた具体的な計画」「(6) 計画を実現するためのガバナンスの強化」に関連)

大学の経営計画に沿った民間資金獲得のための取組は具体的か。

その取組は実現性があり、大学の財政基盤強化に資する民間資金の獲得が期待されるものか。

計画する民間資金獲得のための取組実施を担保するガバナンス体制が整備されているか。

新型コロナウイルス感染症による獲得資金減少の可能性を考慮している場合、計画が、民間資金獲得を増加へと導く方策について具体的かつ実現可能なものか。

(4) 本事業の効果

(主に各大学の計画調書の「(7) 本事業の政策的効果」に関連)

本事業に当該大学が採択されることで、当該大学の経営に強いインパクトを与え、取組を加速させるなど、政策的な効果が期待されるか。